

人・自然・社会と共に生きることができる子どもの育成

愛知県西加茂郡三好町立三好丘小学校

みずのちえみ
水野智恵美

【実践の内容】

1 学年182名、5クラスという悪条件の中、地域の特徴を生かして総合的な学習の実践に取り組んだ。地域に点在する64個の彫刻・石像を学習の対象にした。彫刻・石像は、目で見えて確かめることができる。子どもたちにとって魅力ある教材となった。追求は、学級を解体して、こだわりごとに班を編成して行った。学年教師6人もそれぞれ担当を決め、調べを支援した。調べていくうちに新しい発見があり、1年間を通して学習が継続した。調べたことを創作劇にしたり、ホームページにしたり、あらゆる方法で外部に発信した。

【論文内容の紹介】

1 主題設定の理由

子どもたち個々に目を向けると、基礎的な知識をもち、与えられた問題について調べたり、解決したりする能力が比較的高い。しかし、他者の価値観を認めたり、共に学ぼうとする力が不足しているため、自分を取り巻く人との関係が希薄である。

2 めざす子ども像（○感性●主体性◎創造性）

○彫刻や石像に興味をもつと共に、自分たちの住む三好丘を一層好きになってほしい。

●学級やグループで課題を追求していく中で、様々な手だてを考えて、仲間と協力しながら、調べや活動をしていってほしい。

◎自分たちの住んでいる地域のよさを知り、保護者や地域の人たち、他学年の子どもたちなど多くの人に伝え、誇りと愛着をもって暮らしていくようになってほしい。

3 授業実践

(1) 出会いの場

彫刻や石像に目を向けてほしいと願い、三好丘にある公園を中心にクイズに答える方法でウォークラリーを行った。子どもたちの意識が彫刻や石像に向き、追求へとつながった。

(2) 追求・交流の場

子どもたちのこだわりは、広がりを見せた。話し合いを重ね、学級を解体してこだわり班を編成した。学年教師も自分の得意分野で、子どもたちの支援を始めた。

・彫刻グループ

地域にある彫刻の形や作者について詳しく調べ、彫刻の模型やカルタをつくったり、グループ主催の彫刻フェスタ（他学年、保護者、地域の人たちによる審査）を行った。また、彫刻の作者とメールやビデオレターでコンタクトを取り、作者の思いにも迫った。

・石像グループ

石像には、それにまつわる昔話があることをつきとめ、登場する「本物」を探すことから始めた。追求では、地域の多くの人に協力を願った。実際に「本物」を地域の神社や寺、町内の旧家で見つけ、そのことを紙芝居や創作劇にまとめた。

(3) 発信の場

文化祭やうきぐもスペシャルフェスティバル（学年独自の行事）で、子どもたちの調べを保護者や地域、他校に発信した。自分たちで、彫刻・石像ウォークラリーを主催し、保護者や地域の人たちと楽しんだり、作成したホームページや創作劇を発表したりした。

4 成果と今後の課題

子ども、教師共に、地域について深く知ることができ、愛着と誇りをもつことができた。また、彫刻や石像を位置情報として使えるようになり、自分の生活と密着するようになった。今後、学習を進めるにあたって、子どもたちが解決したい課題が多様化したときの支援のあり方、学級解体で学習を進める場合の人間関係づくりなどの課題が残された。